

〔福〕ケアハウス信愛館

周囲にある木々の若葉、鮮やかな緑色が目に染みるようです。ケアハウス信愛館も開設から十六年目を迎え、この間の時代の変化はとて大きく当初とは様変わりしました。これまでの皆様方の支えに感謝すると共に、一歩ずつでも前に進めるように、すなわち「終の棲家」の目標に近づけるように職員一同力を合わせるつもりです。

◆四月二日（月）午後からお花見に出かけました。「安土文芸の郷」では散策しながら楽しみ、続いて織トンネルを通り抜け、五個荘では車窓から満開の桜を見ることができました。大中周辺に咲く桜を眺めつつ、近江八幡休暇村へも脚を延ばし、車を降りてティータイム。楽しいひとときを過ごしました。

◆四月十一日（水）中路融人記念館を訪れました。「中路融人追悼展」と題した展示があり、ここに参加された入居者の安村久美子さんが書かれた手記を掲載させていただきます。

『二年に一度、日展会場で目にした作品が何点も並んでいて声をのみました。最初訪れたのは二年前、記念館開館の日でした。』

毎年開かれる日展の数多い絵の中で一きわ心惹かれ何時の頃からか中路融人という画家の名を記憶するようになりました。高山辰雄など著名な画家と並ぶ絵の前は人の流れが止まる会場となっていました。今回信愛館の企画で再度鑑賞する機会が与えられ嬉しく参加しました。

一枚一枚の画面から川の流れ、雪の冷たさ霧の匂いまでが立ちのぼってきます。小学生の頃、疎開で農耕の暮しを体験している者には胸の中にあつた季節の移ろいの記憶が蘇ってくるようです。

会場には画家自身のスケッチされているビデオが流されていて友人は「絵の見方を教えられた」と言われ、また使われていた岩絵具、筆なども展示されて日本画の案内にもなっていたようです。

「自然の美しさに素直に驚き感動する心を持ちたい」という中路さんの言葉は参加した私達一人一人にも十分伝わった一日



でした。

こんなにも身近かに素晴らしい記念館のあることを在任の方々に、もっと知って欲しいと願った一日でもありました。』

鑑賞された皆様が、心から感動された様子が伝わってきます。折を見て再度訪れたいと思っています。